

校長室だより～和光高校今昔 第10号 H26. 7. 11

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

## 和光高校校歌について

和光高校校歌 作詞 埼玉県立和光高等学校国語科 作曲 八木原 宗夫

雲は傷く 武蔵野の広い沃野に 今友と仰ぎ見る その雲の色 和光 和光

我らはここに輝く若樹 燃える希望の 手を組んで 友よ新しい 今日を学ぼう

明日のために

風は吹く 武蔵野の広い沃野に 今友と仰ぎ聞く その風の音 和光 和光

我らはここに 輝く若樹 遠い歴史の あとを受け 友よ新しい 今日を創ろう

明日のために

水はゆく 武蔵野の広い沃野に 今友と望み見る その水の色 和光 和光

我らはここに 輝く若樹 高い理想の 灯をかざし 友よ新しい 今日を学ぼう

明日のために

和光高校の校歌は、草創期の先生方により作られました。著名な歌人・詩人でもある杜澤光一郎先生と初代教務主任として学校の礎を築いた藤本裕之先生ら国語科の先生が中心となり歌詞の構想をまとめました。この草稿をベースに初代校長高島朗先生・教頭大野好治先生（後の三代校長）ら当時の先生方が未来への希望を託し完成させたものです。従って作詞は個人名でなく「国語科」となっているのです。そして音楽科の八木原宗夫先生（芸術総合高校第3代校長）が口ずさんだメロディがとても素晴らしかったので、作曲を任されこうして「手作りの校歌」が誕生したのです。開校3年目の昭和49年、第1期生の卒業に向けての饞（はなむけ）も兼ねていました。県に届けた7月25日が校歌制定の記念日だそうです。

和光高校のそびえる武蔵野の沃野では、顔をあげれば大空が広がり、爽やかな風が身体を吹き抜け、荒川の流れが大地を潤すという牧歌的な情景が浮かびます。そして学校の主役である生徒たちは、いつの時代においても可能性を沢山持っている「伸び行く若樹」であり、かならずや立派に育てていこうという力強い決意が歌詞に込められています。「樹木十年・樹人百年」という中国春秋時代、齊の管仲の言葉があります。国家百年の計は人づくりにありと言われるように、この歌詞のキーワードとなっている「若樹」、すなわち一人一人の生徒が和光高校で学び、有為な人材に育つことを切に願っているのです。開校43年目の本校ですが、多くの卒業生が教育者として活躍しています。和光で培われた教育観が次代の若者を各所で育成していると考えたらあらためて「樹人百年」の重みを感じます。



肥沃な大地には、良い作物が生まれ、人々が潤い、文明が築かれます。

和光高校には、人を育てる豊かな土壌があります。

若樹は大きく成長し、

木陰をつくり疲れた人を癒したり、新芽を育てて行くのです。